

# 桐鈴凜々

第77号

平成23年5月15日 発行

発行責任者

社会福祉法人 桐鈴会

理事長 黒岩 秩子

南魚沼市浦佐 5142-1

電話 025-780-4118

FAX 025-777-3731

e-mail

suzukake@rose.ocn.ne.jp

http://www17.ocn.ne.jp

~/tourei/

## 被災地の皆さんに寄り添うとは

私も避難民だった

桐鈴会顧問 黒岩 卓夫



心底に静かに染み込む津波

東日本大震災が本当に発生したんだと、毎日自分に言い聞かせては、自分が直接の被害者でなくても、今を明日をどう生きるかが、一瞬のめまいに襲われたように先が見えなくなる。確かなものは、日本人全体にひたひたと押し寄せる悲しみであり、津波のような圧倒的な恐怖ではないが、私たちの心底に静かに染み込んで来る津波だと思ふ。

悲しみを大切にし、

それを見つめる

五月二日、毎日新聞朝刊の記事「急接近」で、私の友人であり、私の著書「老いの復権」（三輪書房）の対談者でもあった精神科医の野田正彰さんの発言に深く共鳴した。氏は悲しみを大切にし、それを見つめることが大事。「不幸を忘れた町」は必要ないと述べている。傷ついた被災者に寄り添うことは、最大悲しみを共有することであり「がんばろう」

と励まして悲しみを忘れることではない。同じく今よりも立派な町（街）を再建して、不幸を忘れた新しい町をつくる必要はない。悲しみのなかから少しずつ、自分の生きる道筋を見つけて行くことこそ大切と述べている。

私の体験である柵



私個人の体験から、改めて野田氏の提言を考えてみたい。

私は小学校二年の夏、日本の敗戦によって満州の開拓団から脱出し、日本人二十万人と共に流亡の荒野で避難民になった。日本人は死んで当たり前の環境のなかで、妹弟は餓死し、私も病气から九死に一生を得て帰国することができた。両親はもとより、子どもである自分も、悲しみと恐怖は今も心底にこびりついて離れない。家族を喪った悲しみ、戦争への憤りと絶望、自国民を異郷に捨てた国の告発。こうした自分の体験である柵（しがらみ）が、今に至る自分の生き方に大きな影響を与えた

し、その悲しみを忘れずに大切にしてきたのではと思う。

さらに今回の大震災。津波は原子力発電所を瓦解させ、その目に見えない放射能の恐怖、場合によっては戦争より恐ろしい人災を発生させることになった。これは某国のミサイルで打ち込まれる一発の核爆弾より威力を持つているかもしれないのだ。

科学者としての責任

最後に具体的な提言をしたい。一つには、地震や原子力に関する科学者の責任である。政治家や財界人とは違う、科学者としての立場から、事の本質や成すべき対策を明言してほしい。たとえば地震の研究者は、発生した地震の規模から津波の大きさを、現代科学と歴史的事実を踏まえて三メートルや六メートルではなく、十メートル、十五メートルとその可能性をはっきりとした警告として、マスコミを通して現場へ届けてほしかった。

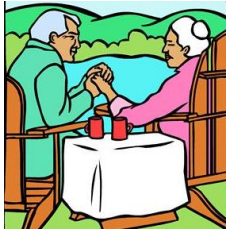
また、原子力は本当に人間の

力でコントロールできるのか、事故の度に想定外とは何事だ。私はコントロールできないと考えるし、科学よ驕るなかれと言いたい。

### 恐ろしいことは繰り返すな

二つには、政治家もまた発生した事態の真実を、被災した住民の悲しみを、恐怖に逡巡する国民の心を、その志や使命感から真正直に受けとめ行動してほしい。

そして高齢者とよばれる皆さん、戦争体験から今に至る歴史を知っている者として、声を大にして、これが最後の出番として、恐ろしいことは繰り返すな”と社会に呼びかけてほしい。



## グループホーム 「ひまわり」開設



桐鈴会  
職員や関係  
諸機関の皆  
様のご協  
力・ご支援  
をいただき、  
「グループ  
ホームひま  
わり」が産

声を上げることができました。

定員は男性六名を予定しておりますが、現在二名の方が利用され、連休明けに一名の方がご入居予定です。サラリーマンと同様、朝、それぞれの作業所に仕事に出かけ、夕方「ひまわり」に帰ってきます。世話人という職員が食事を作り、日常生活の各場面での支援を行いながら、地域で生活することを目標にしています。

四月十八日にご利用者二名、理事長、職員四名で歓迎夕食会を開き、約半月が過ぎようとし

ていますが、昔の下宿のような雰囲気をもし出しています。職員も「もう一軒」の我が家にいるようだね！と感想を言い合っています。

土・日曜日は作業所が休みなので、のんびり休日を過ごす方、姉妹施設の「桐の花」で、ボランティアを行う等々、思い思いに過ごしていただいています。

開所までの間、準備期間が少なく、職員の手配や三障害について知識・情報も少なく、本当に不安の日々でした。夜間に宿泊し、ご利用者と生活を共に行った上で、町内会での説明もさせていただきました。一歩ずつ、地域の一員として生活できるように全員で努力して行きたいと思っています。

オープンまでの道のりを支えてくださった関係者・職員の皆様や、何も言わずに仕事に専念させてくれた家族に深く感謝しております。今後ともよろしくお願いたします。

(グループホームひまわり

サービス管理責任者

星野 淳子)



食事会の風景。前列左から理事長、入居者の安部利一さん。後列左から世話人の羽吹和美・星野真由美・金子清美。入居者の中沢勇士夫さん。

### グループホーム 「ひまわり」 入居者募集

四月一日、浦佐二六二番地(田町)にオープンしたグループホーム「ひまわり」は、軽度障がい者の住むところです。朝と夕方、世話人さんが食事を作り、洗濯、掃除などをしますが、原則として夜は泊まりません。費用は月46,000円。入居者は、障がいを持つ男性です。昼間は、日中活動の場に行っていただきます。



## 新入職員の紹介



ケアハウス鈴懸

桑原 千秋



残雪と新緑  
と桜に彩られ  
た春。真冬の  
快晴に光る雪  
山の荘厳さ。  
この四季の鮮  
明な美しい故

郷に、関東からUターンして五年目になりました。旧小出町の伊勢島に家族四人で住んでいます。元々すぐ隣の虫野生まれ。鈴懸までは車で十分の近さです。Uターンして二年目の夏頃から第一、第三木曜のお茶会に伺うご縁をいただいておりますが、今回また、週二回程お世話になるご縁を重ねていただき感謝しております。

色々な方から「大きいわね」と感心(?)して言われますが、「先日など「一九〇センチくらい？」と聞かれ、さすがに焦りました(一六九センチです)。一

度でよいので**小柄**と言われてみたいです。

好きなものは古い木造建築、廃墟。中学時代の部活仲間とのママさんバレーは何よりの楽しみです。

戌年・獅子座・O型。どうぞ、よろしく願います。

## グループホーム桐の花

佐藤 真由美



四月よりグループホーム桐の花に介護職員として仕事をしています。よろしく

お願いします。

魚沼市は旧守門村より通勤しています。雪で真っ白な守門岳を背に車を運転して来ますと、広々とした平野の南魚沼市に入り、天気の良い日は目の前に雄大な八海山が見えて来ます。守門にはない美しい景色に日々見とれています。

そして我が家には小学五年生の長女、小学三年生の長男、保

育園年中の次女と三人いて、毎日にごやかにしています。

長男は中等度の自閉症で須原小学校の特別支援学級に在籍し、張り切って学校へと通っています。グループホームひまわりのオープン是我が子の将来を思うとき、大変希望になる施設だと嬉しく感じます。

介護職は初めてなのでご迷惑をかけますが皆さん願います。

## 東日本大震災 によせて



この度の震災で、被害にあわれた多数の皆様にご心からお見舞い申し上げます。

震災が起きて何日目かに、自立支援の関係でお世話になっている山内さんと「何か出来ることをしたいけれど、分別のこと

を考えるとまずお金ですかね」とお話をしました。

その後、山内さんより「募金の協力をお願いします」と、障がい者救援募金の資料をお預かりしました。私もNHKの「福祉ネットワーク」で障がい者の震災の情報を見ていました。自宅が被災し、なじみのヘルパーも訪問できなくなり、手足である機器類も使用できないなど、過酷な現状を訴えておられ胸が痛みました。

さつそく、鈴懸の皆様にご募金をお願いしたところ、二週間で五万四千円と沢山の寄付があり、障がい者支援の窓口『ゆめ風募金』に入金することができました。鈴懸では他に「南魚沼市義と愛の義援金」も三万円ほど集まりました。本当にありがとうございます。

普段、何気なく使っているお金ですが、大きな痛手を受けた東北の方々に思いを馳せた時、一日でも早い生活の復興と、心の平安のための使者になってもらいたいと切に願っています。

(鈴懸おはようヘルプ

管理者 佐藤 雪江)

夢草堂に数々の見事な雛人形。昨年同様、入居者の方や職員の大切な思い出の人形たちが飾られました。一カ月間、たくさんの方に見に来ていただき、心を和ませてもらいました。

四月二日、桐の花夜勤の関勝造(三味線のお師匠さん)で、芸名澤田勝造としても活躍中)に三味線をお願いしてお茶会を開きました。鈴懸の入居者の方も参加してください、おいしい桜餅と三味線の伴奏で唄い、楽しいひとときでした。



雛人形をバックに得意の津軽三味線は、我らの澤田勝造！

鈴木要吉さん、井口末作さん、片桐アキコさん、笠原マズノさんなど歌手も揃い盛り上がるなか、ひとときわその場をびつくり

させた美声の阿部房江さん。アンコールで歌ってくれたアカペラでの『古城』のソプラノも素晴らしい。皆が聞き入っていました。

今年の春は雪も深く、なかなか外出する機会をつくれずにいきましたが、夢草堂では今回のひなまつり会のようにボランティアの方が民謡を唄いに来てくれたり、踊りを見せられたりと、賑やかな会を催すことができました。

民謡教室の市川竹安先生は、冬の間に時間を作って時々来てくださり、昔話をしながら唄を聞かせてくれました。マイク無しで園内に響き渡る声に、我が家(桐の花のこと)の耳の遠いお年寄り方も手拍子をとって喜んでいました。

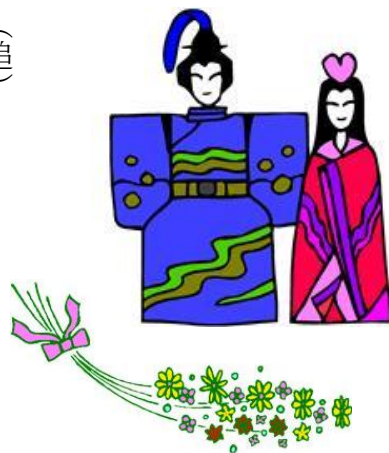
四月十五日には、浦佐の方が三人で来てくださり、唄や三味線、踊りを披露してくれました。(グループホーム桐の花)

関 和香子

# ひなまつり



水落キヨさんの股旅もの。座っているのは永井タキさん。



(追)

二月のお茶会に来てくれた国際情報高校の三年生の中に、浦佐在住の女医の卵が二人いることがわかりました。新大医学部に入学が決まった水落理絵さんと石川夏生(なつき)さん。私はこの二人にぜひ地元に戻って

きて欲しいと伝えたくて連絡を取りました。水落さんの祖父が松坂節で有名な水落忠雄さん。その妻キヨさんが電話に出て、「夢草堂で踊りたい」と。ぜひと、実現したのが四月十五日の踊りと歌だったのです。水落キヨさん、永井タキさんの踊り。阿部千代さんの歌が入居者の皆さんを楽しませてくださったのでした。

(桐鈴会理事長 黒岩 秩子)



阿部千代さん、なかなかの美声。三味線の音もお寺に共鳴。





理事長（黒岩秩子）が、「鈴懸」や「桐の花」の入居者の方々にお話を聞くコーナーです。理事長の軽妙な話術で、日頃あまり話されない方もついつい…。アツと驚くお宝（話）が出てくるかも？

第一回は、ペンネーム「枯れ尾花」さんのお話です。

―春の屋台デーはどうでしたか？

おいしかったですよ。私は好き嫌いがあって、いただいたのはラーメン、お好み焼き、けんちん汁だけでした。でも、お好み焼きは二枚、けんちん汁は二杯でした。

―デザートは？

そんなのがあったのですか、私は、日ごろ甘いものはあまり頂かないのです。

―そのせいですか？歯がきれいですね。

私は、一本も悪い歯がなく、三十二本あります。

―エー！ そんな人ないですよ。八十六歳の方が、三十二本の歯とは！

ここの食事は、柔らかいものが多くて、入ってそろそろ三年になります。どうもここにきてから歯の周りの筋肉が弱ったかと思っています。歯ごたえのあるものも出していただけたらと思っています。

―屋台デーの余興はどうでしたか？

楽しかったですよ。私も若いころはよく唄っていましたが、今は老化のために唄どころではなくなりました。今はその頃一緒に唄っていた人たちも、ほとんどが亡くなってしまっただけ。山に行ったり旅行をしたりという仲間もほとんど亡くなってしまいました。気が合う仲間でもだ生きているのは二人だけです。そのうちの一人は、軽い認知症になり特養に入ってしまったのですが、ご主人が、その施設を訪ねた時に電話をくれて、友達

とも昔話に花を咲かせています。こういう所に入る人は、みんなそれぞれ苦労をして入ってくるわけだから、みんなが同じだと思ってきたのに、先輩とか後輩だとかいう人がいて、不思議だと思いました。毎日を穏やかに過ごしていければ幸いです。

私は、去年お風呂で転んで腕の骨を折ってしまったときに、鈴木トシさんや、青木ヨシノさんに背中を洗っていただいたりしてお世話になり、良い友達に恵まれ感謝しています。

## 彼岸に雪灯籠



鈴懸の  
博士、吉  
田英男さ  
んは春の  
彼岸が近  
くなる  
と数多くの  
雪灯籠を  
作ります。  
今年  
は三月二十  
六日と二  
十九日の

二回灯しました。場所は鈴懸裏の畑。背景に農協営農センターの三角屋根がうっすらと浮かびます。

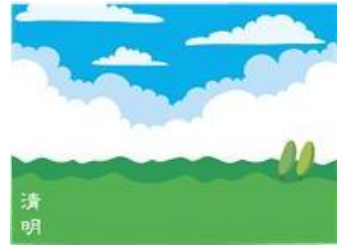
今は亡き奥様を想い、一本一本の蠟燭に火をつけていく吉田さん。そんなロマンティストな一面を垣間見せてくれる瞬間です。



畑の耕作に、読書に忙しい吉田さん。お酒は程々に、来年も再来年も続けてください。



# 桐鈴川柳



◇恐ろしい 地震に津波  
放射能

◇災害に 対応遅し 菅政権  
(桜梅桃李)

◇さくらさく 心のなやみは  
いつひらくの

◇さくらさく 孫もひ孫も  
さくらさく  
(井口末作)

◇樹木 (きぎ) のみどり  
伸びいて鳥の よろこび

◇水仙の 土手の黄色も  
日毎増す  
(田んぼの蛙)

◇こんな世に のどかになれと  
無理を言う

◇知らぬ間に 明治生まれの  
人消える  
(薫風)

◇角界の けいたい電話  
落とし穴

◇エコと言ひ 分別できぬ  
ゴミの山

◇歩止まりに 踊り踊られ  
皮肉肉  
(わからんばー)

## お礼

「凛々七十一号」で、「ご協力をお願いしたのに呼応してくださって、寄付のほか、無利子の融資をしてくださった方が数名おられます。お名前は出しませんが、そのような皆さんに支えられて桐鈴会が成り立っております。この紙面をお借りしてお礼をいたします。(黒岩秩子)

## 新入居者紹介

ケアハウス鈴懸



かねまき  
印牧 クニ

大正生まれの八十五歳の誕生日の前の日、四月十七日(日曜日)にお世話になりました。

引越しの当日は天気には恵まれ、周囲の山々の残雪も美しく輝いていました。又、近くの歩道の脇には土筆(つくし)が背伸びしており、子どもの頃を懐かしく思うと共に、澄んだ空気に触れ清々しい感じの一日でした。

私は昭和十八年四月に城内村を離れ、本年四月まで新潟市に暮らしておりました。この度、鈴懸さんのご厚意をいただき、五階の五〇七号室へ入居させていただきました。当初は何も分からず戸惑いましたが、事務所の方を初め職員の方々、又入居

者の皆様の親切なご指導をいただき、一つ一つ慣れて一週間でもかなり落ち着きました。

私は今のところ体調は少々腰痛と、外反母趾に苦勞していますので、ラジオ体操に参加したり、三十分くらいの散歩をしたりで進まないようにと願っているところです。

これからも皆様のお世話になることばかりと思います。どうぞよろしくお願い致します。簡単ですがご挨拶とさせていただきます。



## お知らせ

ケアハウス鈴懸の入居者、佐藤信平さんが三月二十九日退所されました。城内の娘さん夫婦と一緒に暮らされています。鈴懸のショートステイに度々来られる予定です。規則正しい生活を旨とする佐藤さん。また、優しい笑顔を見せてください。

## 入居者コラム



ケアハウス鈴懸入居者

桐鈴会 評議員

上村 キ又子

江戸時代、幕府で一番偉い人は將軍様で、次に偉い人は大老、次が老中と「老」のつくのは偉い人。今の老も偉いよ！

江戸幕府の大老や老中に負けてはいけません。国家公務員（？）ですからね。働いていた時に賃金の一部を天引きされて納めていましたが、今は立派にお国からお金を頂いています。老いて体中あちらこちらと痛む所がありますが、それは、これまで働いてきた勲章。勲章がいつばいあって重いですね。

私も鈴懸で偉くなりましたよ。九十歳近くになろうと云うのに「評議員」と云う肩書きをいただきます。これも重いです。何日までも元気であるというのかね？まっ、生かされている

うちは感謝、感激、雨霰つてなところ、嫌なことは吹き飛ばして、お迎えが来るまで生き続けることにしましょう！

先日、鈴懸のお花見がありました。少し肌寒く何を着て行くか迷いましたが「えい！まよ」と着て出たもののやはり寒い。ヘルパーさんをお願いして部屋へ取りに行っていたきました。

道中雪も少なく、道の両側は桜が満開でした。樺（ブナ）の新緑、水仙・黄梅・連翹（レンギョウ）の黄と、様々な彩りが美しい。又、小手毬（コデマリ）の白く顔出す蕾の愛らしさ。天からはかろうじて落ちてこない花曇でしたが、湯沢に近くなったら温かくなり、窓を開けていただくことになりました。到着した湯沢中央公園は桜が見ごろでした。特に赤い花が目を引きまします。人に尋ねると、「紅山桜」とのこと。

昼食はカルチャーセンターの二階の桜の見える部屋で豪華弁当をいただきました。その後公園内を散歩しました。池の周囲には枝垂れ桜（二、三部咲き）や流水

もあり、石の配置もよく景色は満点でした。

帰りは湯沢駅の売店「こころ」で見物と休憩。駐車場の奥にエレベータがあり、入り口は満車で車を止められないかと心配しましたが、奥はガラガラで一安心でした。

エレベータを降りると高いコンクリートの壁に囲まれていて、どちらへ行ったらよいのやらと、目を上に向けてと標示が出ていましたが心配でしようがない。暫くしてから恐る恐る歩き出しました。

売店に着くと驚きました。広くて長い。一通り見てから買い物をして、皆でコーヒーションプに入り一服してから車中の人に。

往きも帰りもよい景色を眺め、又、八海山がすぐ近くに見え誠に豪華な花見でした。



## 介護福祉士、二名誕生

介護や福祉の仕事は身体と心を使うだけではありませぬ。実は頭も使うのです。日々の業務を終え、帰ってきた後に勉強！資格を取ることが当たり前前の世界です。

桐鈴会では、昨年度の介護福祉士試験に二名が合格しました（ちなみに一昨年は四名）。「介護福祉士」は介護の専門職と認められる資格です。鈴懸おはようヘルプの川島かおると、グループホーム桐の花の小澤俊子が、この四月から晴れて「介護福祉士」です。二人は六〇代と五〇代。仕事に、主婦業に、孫の世話に、勉強に、ご苦労様でした。一方、大きな声で言えませぬが、介護支援専門員試験、いわゆる「ケアマネージャー」になるための試験は、四人受けて全滅。今年は頑張ってくださいね。

## 《寄附者》

曾田蕭子  
小俣當枝  
清水春代  
鈴木スミ  
内藤啓子  
前辻徹  
小沼和夫  
志太喜恵子  
大平和子  
森山泰輝

《ボランティア》  
アンさん  
B・アンジュ  
石田繁晴ご一家  
石田悦秋  
市川竹安  
井ノ線亭ぼんぼこ  
浦佐小五・六年生  
浦佐幼稚園児  
榎本宗俊  
大崎ぼたんの会  
門山電機店  
岸本祐有乃  
高波礼子さんと北里の合唱及び  
器楽のみなさん  
北里大学保健衛生専門学院生  
国際情報高校生（多数）



# 平成22年度 ボランティア・寄附者（敬称略）

ご協力ありがとうございました

国際情報高校吹奏楽部  
佐藤詩織  
清水昭博  
清水春代  
清水スイ子  
志太珠美  
志太ミヨシ&お孫さん  
城内中学吹奏楽部  
関正太郎  
関光弘ご一家  
曾根晴雄  
滝沢清・早苗  
多聞青年団  
天王町盆踊りの会  
中俣てる子三姉妹  
行方ヒロ&錦繡会  
行方弘子  
ニムさん  
昇工務店  
葉月みなみ  
八海高校生  
星野康之ご一家  
「ほのぼの」貝瀬さん・若井さん  
堀之内工芸  
堀之内中学三年生  
森山里子  
ヤマト設備  
大和中学生  
ラーサホデイさん  
鈴木規子さんとリリカ合唱団



来たる十月十六日、

## 岸本祐有乃さん再演！

桐鈴会十二周年記念公演

二月に夢草堂で好評を頂いた岸本祐有乃さんの指揮とピアノがパワーアップして帰ってきます。

「もつと聴きたい」、「広くて音の良いホールでやってほしい」など多くの声が寄せられたことを受け、再演の運びとなりました。

会場は「さわらび」をとりました。前回は城内中学吹奏楽部に出演していただきましたが、今回は城内中の他に大和中と大巻中の吹奏楽部も参加してくださる予定です。ご期待ください。ピアノ曲のリクエスト等がありましたらお知らせください。

\*チケット 5000円



（高校生以下 無料）

\*詳細は後日改めてご案内します。

## 編集後記



「桐鈴凛々」の編集のお手伝いを始めて半年が過ぎました。それ以前にも、登録ヘルパーとしてお世話になっていましたので、かれこれ四年余りおつきあい頂いています。読んでくださっている皆様の心をつなぎ、凛々と響く「桐鈴凛々」となるよう、少しでもお役に立てればと思っています。

前号の発行間際に東日本大震災が発生しました。自然の災害の前に、私たち人間はなんとちっぽけな存在なのかと、頭を「ガクン！」と殴られたようでした。それ以後、日本中が閉塞感に包まれ、何の被害も受けなかった私でさえ、心の中に大きな重しを抱えたようでした。

でも、被災地からの映像は、大変な状況にありながら逆に私たちに訴え続けていましたね。「決して諦めない！」と。

あの日から二ヶ月。これからの生き方をほんの少し考えるようになりました。皆さんはいかがですか？  
（森山 芳美）